



けいせん

2012.6.29



「レッツゴー！」子どもたちの元気なかけ声でスタートするサーキットあそび。
 マット・トンネル・ベンチ・とび箱・フープなどでコースを作り、音楽に合わせて
 走りながら、とんだり、のびたり、くぐったりといろいろな運動ができるあそびです。
 障害物競争のようにコース上に物を並べて川貝虫を決めるのではなく、
 それぞれが、ひとつひとつのコーナー（トンネル・平均台など）にどんどん挑戦していく
 冒険のようなもので、主体的に取り組みしていきます。一年を通して行っている
 サークットあそびですが、雨の多いこの時期にはピッタリのあそびです。外へ
 出られなくても、しっかり体を動かして汗のしむことができます。

恵泉幼稚園では、特別な身体的訓練は行っていません。だから、必ず
 とび箱がとべるようになるわけではなく、逆上がりができるまで練習することもあります。
 けれども、サーキットあそびやリズム、そして、びりびりを解放して汗のしむ外あそびと
 いう全身運動を通して、偏りのないバランスのとれた体づくりをしています。
 自由な遊び中心の保育の園、外あそびの時間が長い園の子どもほど、運動
 能力が高い、という専門家の指摘もあります。大人が一方的に指導し、
 子どもが受け身で身につけることよりも、たくさんあそびの中でいいいい体を
 動かし、考えたり知識を出し合ったり、友達と心を通い合わせながら身に
 つけることの方が望ましく、何よりうーんと汗のしい！ということ（思いつき）
 あそんでいる子どもたちの表情から伝わってきます。

もちろん子どもたちは、「体づくりのために外あそびをしよう」とは思っていない
 ません。とにかく外あそびが大好き！それだけです。それでいいのです。

汗のしい、やってみよう、手伝ってね、（やしい、うれしい...）びりびりを十分に動かす
 時間と空間と仲間が保障されている時にこそ、子どもたちは心身共に
 成長するということを確信して保育を行っています。「さあ、今日は何をして
 遊ぼうかな」と目をキラキラさせて外へ走って行く子どもたちの笑顔は
 いきいきとしていますよ。